

会 議 録

会 議 名	第10回市民協働に関する小金井市実態調査小委員会
事 務 局	市民部コミュニティ文化課文化推進係
開 催 日 時	平成22年12月27日（月）午前10時00分～11時42分
開 催 場 所	市民会館萌え木ホールA会議室
出 席 委 員	山路憲夫小委員長 白井亨委員 川合彰委員 玉山京子委員
欠 席 委 員	今井啓一郎委員
事 務 局 員	<p>1 小金井市 コミュニティ文化課課長 鈴木茂哉 コミュニティ文化課 文化推進係長 山田耕太郎 コミュニティ文化課 文化推進係主事 岩佐健一郎</p> <p>2 小金井市社会福祉協議会 小金井市市民協働支援センター準備室 市民協働推進員 加藤進 市民協働推進員 佐藤宮子</p>
傍 聴 の 可 否	㊦・一部不可・不可
傍 聴 者 数	4人
会 議 次 第	<p>1 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）について</p> <p>2 市民協働に関する小金井市実態調査報告書の活用方法について</p> <p>3 その他</p>
会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 要 旨	別紙のとおり
提 出 資 料	1 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）
そ の 他	

会 議 結 果

- 1 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）について
 - (1) 委員から出された意見に従って、修正することとした。
 - (2) 「総括（案）（たたき台）」を「まとめ」とし、委員の意見を反映させて小委員長が案を作成することとした。

- 2 市民協働に関する小金井市実態調査報告書の活用方法について
 - (1) 検討委員会で承認を受けた後、資料要求に基づき議会に提出したり、機会をみてマスコミに提供したりして活用することとした。

会 議 要 旨

【事務局】 (小金井市市民協働に関する実態調査報告書(案)を説明)

【小委員長】 膨大な量なので、いろいろ意見を出していただいて、実際のまとめは小委員長に一任ということでいかがかと思う。最後の総括の部分だが、要約と総括を別々にして、それぞれA4判1枚程度にまとめてはどうか。総括には委員の感想や今後の期待などを入れることにしたい。

【委員】 個々の分析がポイントになる。

【委員】 要約ができればよいが、大変な作業だと思う。

【事務局】 市議会の行財政改革調査特別委員会の委員から、実態調査報告書を資料として提出してほしいとの要求があり、全体会で承認されれば提出したい。議会も強い関心を持っているようだ。

【小委員長】 議員には全部読んでもらいたいが、まずA4を読んでとなると思う。

【委員】 全事業数に対する協働事業数の割合は示せないか。

【事務局】 難しい。全事業数は出ているが、協働事業として回答のあった70事業と同じ分け方であるとは限らない。

【小委員長】 「課長等」は「担当者」でよいと思う。

【委員】 協働事業の評価の基準を設けるべきだということを総括に入れられないか。評価を実施する場合は、第三者の評価組織のようなものをつくることになると思う。

【小委員長】 今後の検討課題ということで出すようにしたい。調査概要の3の「調査内容・時期等」は、「調査方法・時期等」にしてほしい。

【小委員長】 検討委員会に対する市長の諮問事項を確認したい。

【事務局】 大きい第1は「小金井市における市民協働のあり方等について」、大きい第2は「(仮称)小金井市市民協働支援センターのあり方等について」である。

【小委員長】 「6 調査の主な目的」に、「(仮称)小金井市市民協働支援センターのあり方等について」を検討する資料にするため、ということも入れてほしい。

【事務局】 今日の意見を反映したものを1月14日に開催される次回の小委員会に示して、承認を得られたものを報告書の小委員会(案)として1月21日の第3回検討委員会に示すことになると思う。

【小委員長】 事務局には指摘した点を修正してもらって、要約を作成してもらいたい。総括は小委員長が作成してみる。

【事務局】 要約をA4判1枚にということだが、なかなか難しい。要約と

総括の区分けも明確ではない。

【委員】 総括は大きな流れの全体感を言い、要約は調査した内容の代表的な傾向をまとめたものだと思う。

【小委員長】 要約は粛々と書いてもらって、総括では委員の考え方を出すことにしたい。

【事務局】 要約と総括は重複しないようにする必要がある。

【小委員長】 ヒアリングでは、問題をきちんと認識していると感じた一方、従来型の手法から脱しきれないという印象を持った。もう少し市民協働という枠組みの中で展開していくことがあってもいいのではないかと、いくつかの課で感じた。その両方を入れた方がよい。

【委員】 市職員は皆さん能力があって頑張っているが、どうしてもやりやすいことからやっている感じがする。危機感の欠如を感じている。もっと危機意識がほしいといった文章を入れることでいいと思う。

【小委員長】 ヒアリングの中で、市民協働を展開していくにあたってどのような分野にどのような市民活動団体があるかがつかめない、とある課長が率直に言ったことも印象的だった。市民協働のプロセスの中で、どのような市民団体があるかを把握する努力はしてほしいと感じた。

【委員】 すぐ「予算がネックになっている」といわれるのは、納得いかない部分もある。相談に乗ってくれるとか、広報を支援してくれるとか、会議の場を提供してくれるとか、一緒に助成金を探してくれるとか、予算以外にもいろいろ支援の仕方があると思う。そのようなテーブルになかなか乗ってくれないという印象がある。

【委員】 これから検討する協働支援センターに期待することだと思う。

【委員】 予算がないからといって協働が進まないと、お互いにとってよくない。

【小委員長】 ヒアリングをした中で積極的に評価したいのは、情報システム課がコミュニティポータルサイト事業を市民による委員会を作って市民協働で進めていきたいということである。市民協働を展開していく上で、一つの典型例になると受け止めた。

【委員】 具体的でなくとも何かうまく書けないか。

【小委員長】 総括には、具体的なことを踏まえて書くことになる。委員から改めて要約と総括について意見をメール等で寄せてもらいたい。

【事務局】 要約と総括の二本立てがどうしても必要か。

【事務局】 調査の要約をA4判1枚にまとめるのは、相当大変だ。

【事務局】 小委員長の意向なので、チャレンジはしてみるが、これだけの調査をA4判1枚にまとめてどれだけ内容を伝えられるか自信が無い。

【小委員長】 いっそのこと、まとめ一本にするか。まとめにした方がむしろすっきりする。私が今日の意見を踏まえてまとめ案を作り、すり合わせをしてもらうようにしてはどうか。

【委員】 このたたき台について何か意見があれば事務局に出していくということでもいいか。

【小委員長】 そういうことでもいいか。

【委員】 了解した。

(以上)

第10回市民協働に関する小金井市実態調査小委員会次第

- 1 日 時 平成22年12月27日（月）午前10時～正午
- 2 場 所 萌え木ホールA会議室
- 3 次 第
 - (1) 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）について
 - (2) 市民協働に関する小金井市実態調査報告書の活用方法について
 - (3) その他
- 4 提出資料
 - (1) 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）